

# 会報

1994. 6. 30

第1号

## 戦没船を記録する会

〒105 0014 東京都港区芝2 8 43 睦マンション2 0 6  
Tel:03 3452 5085 FAX:03 3452 2711 郵便振替001606 719515

## 目次

日本国憲法前文	1
千葉県戦没船員名簿を読んで	1
会員から寄せられた記録・資料	2 - 3
・「松仁丸」遭難記録の一部	
・「崎戸丸」遭難記の一部	
・会員からの記録・資料(目録)	
事務局日誌・収支報告	4

### 日本国憲法 前文

日本国民は、正当に選挙された国会における代表者を通じて行動し、われらとわれらの子孫のために、諸国民との協和による成果と、わが国全土にわたつて自由のもたらす恵沢を確保し、政府の行為によつて再び戦争の惨禍が起こることのないようにすることを決意し、ここに主権が国民に存することを宣言し、この憲法を確定する。そもそも国政は、国民の厳粛な信託によるものであつて、その権威は国民に由来し、その権力は国民の代表者がこれを行使し、その福祉は国民がこれを享受する。これは人類普遍の原理であり、この憲法は、かかる原理に基づくものである。われらはこれに反する一切の憲法、法令及び勅令を排除する。

日本国民は、恒久の平和を念願し、人間相互の關係を支配する崇高な理想を深く自覚するのであつて、平和を愛する諸国民の公正と信義に信頼して、われらの安全と生存を保持しようと決意した。われらは、平和を維持し、専制と隷属、圧迫と偏狭を地上から永遠に除去しようと努めている国際社会において、名誉ある地位を占めたいと思ふ。われらは、全世界の国民が、ひとしく恐怖と欠乏から免かれ、平和のうちに生存する権利を有することを確認する。われらは、いづれの国家とも、自国のことのみに専念して他国を無視してはならないのであつて、政治道徳の法則は、普遍的なものであり、この法則に従ふことは、自国の主権を維持し、他国と対等關係に立とうとする各国の責務であると信ずる。日本国民は、国家の名譽にかけ、全力をあげてこの崇高な理想と目的を達成することを誓ふ。

### 千葉県の戦没船員名簿を読んで

かつて私は「戦没船員名簿」で、弟の記載内容を確認することがある。その時気になったのは、戦死没年月日、死亡場所、船名についてであった。

船名は無記載であった。また、死亡場所は、「比島」と一言であった。そして、その後の調査で判明した没年月日の不思議さであった。

戦死公報では、「ホ口島沖戦死」「はあぶる丸」である。これでは誰も、海上で戦死したと思う筈だ。そして「はあぶる丸」の沈没は、昭和19年10月30日と記録されているのだが、亡くなったのは翌年の4月25日となっている。

この間のいきさつについては、当時「はあぶる丸」に乗船していた、陸軍将兵の方々のご連絡のおかげで、遭難時の状況はほぼつかむことができた。しかし、4月25日に如何なる姿で死に果てたのかは、想像することさえできない。

さて、現住所が千葉県であるというご縁で、千葉県を本籍とする「戦没船員名簿」を読ませていただいた。1,067名のお名前が記載されている。そこで愕然としたことは、本籍が書かれていない人が2人いること、生年

月日未記入者146人がいることであつた。船員なら船員手帳を見れば自明なことだが、これはどういうことだろうか。

つぎに、死亡場所が未記載68名、船名未記入274名、職名未記入92名、遺族名未記入78名であつた。船員は船員であるがゆえに、このように粗末に扱われてきたのだろうか、憤慨せざるを得ないのだ。また、船員の戦死者を年齢で見ると、最高齢者63歳、最若年者14歳ということが判る。戦争とはいえ、痛ましいかぎりだ。

この名簿によると没年月日は、昭和13年から同22年4月1日南太平洋までであるが、22年というのは合点がいかない。死亡日当日満20歳に達していない、いわゆる未成年戦死者は921人中307人で、3分の1を占める。

戦死者の出身地を見ると、安房郡(千倉、白浜、勝浦、鴨川)277人、銚子147人、山武郡(片貝、鳴海、鳴浜)74人と、海岸地方が船員の供給地であつたことがうかがえ、感慨深いものがある。

戦後50年を迎えようとする今日、せめて戦死者名簿の整備くらい立派にやってくれよ、と私たちに呼び掛ける言葉が聞こえてこないか。(な)

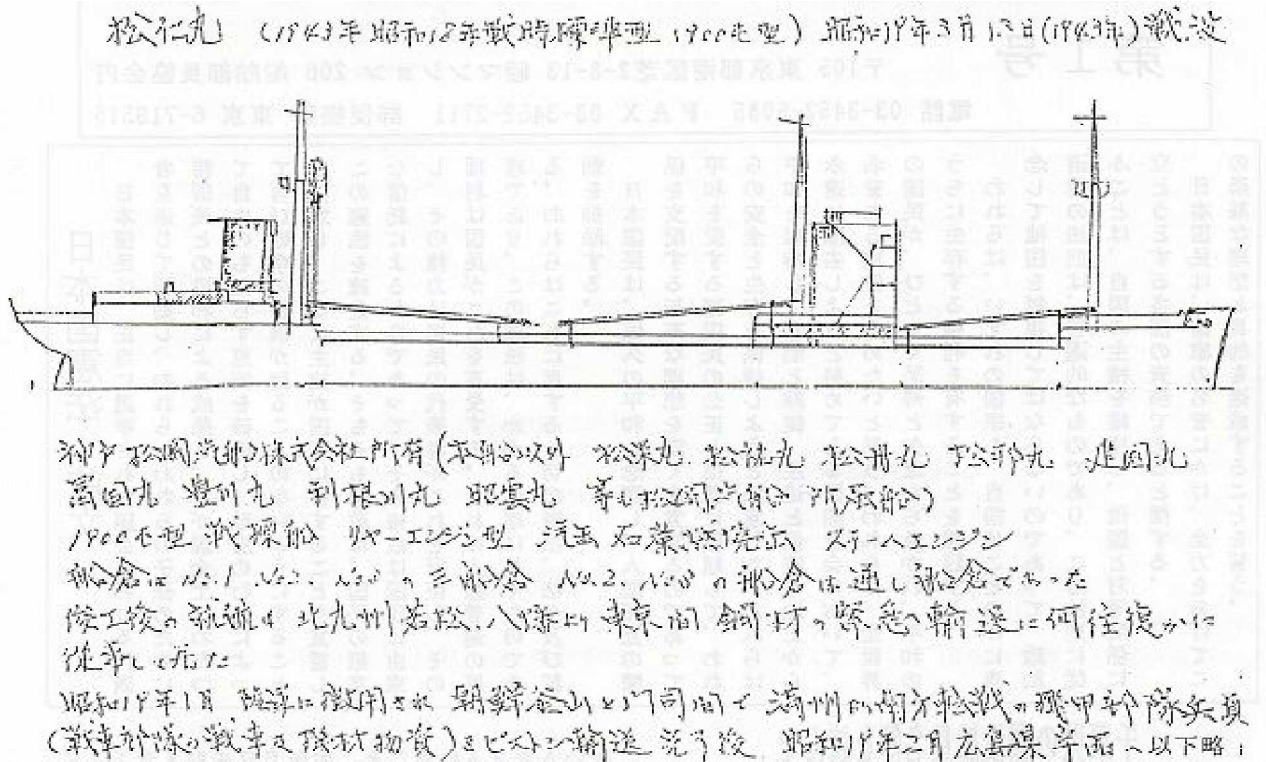
## 会員から寄せられた記録・資料

下 = 横田嘉一氏の「松仁丸」遭難記録の一部。 千島列島北部に軍需物資輸送の途時、魚雷攻撃を受けて沈没までの経過が4頁にわたり記録されている。地図も。

3頁 = 宗田精悟氏の「崎戸丸」遭難の絵と文による13枚にわたる遭難記の一部。

縮小コピーし文字はワープロにした。自作の油絵の紹介も。

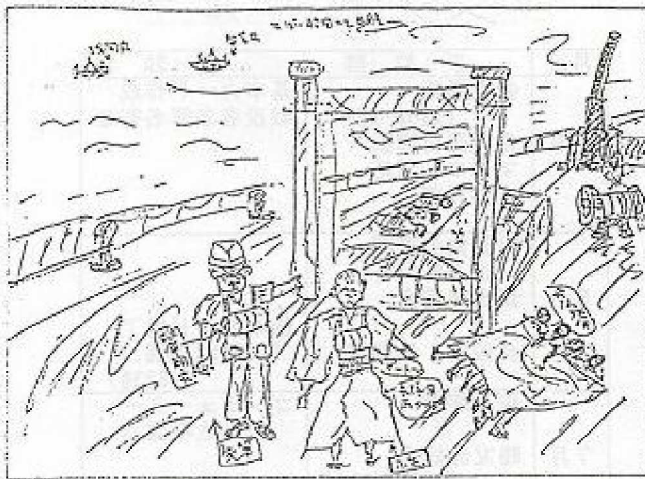
### 「松仁丸」遭難記録（横田嘉一氏）



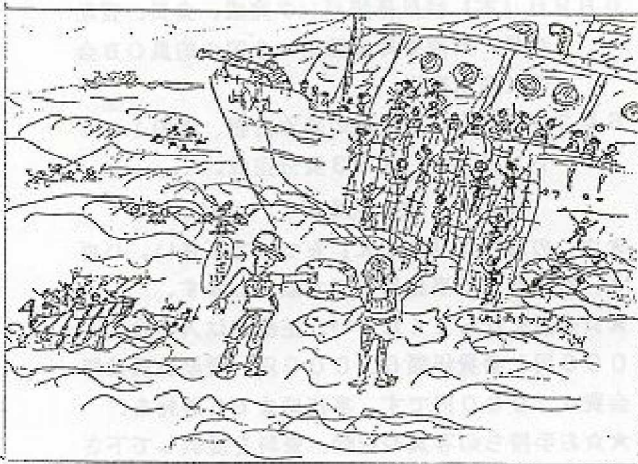
### 会員からの記録・資料（目録） - 敬称略

宮崎丸戦没記録、慰霊祭、遭難会資料	三ッ倉正夫（秋田県）	松仁丸遭難記録	横田嘉一（浦和市）
泰安丸（NYK）戦没状況自画報告	大野一成（名古屋市）	佐渡丸他遭難記録	広瀬太郎（練馬区）
めきしこ丸を追跡する	茂木信次（熊谷市）	第3函南丸遭難記録	内藤晴治（小林市）
さいべりや丸セブ島残留船員の帰還報告	長堀建哉（埼玉県）	不屈の輸送（輜重兵第2連隊史記）	
太山丸に関する報告	正岡勝直（町田市）	はあぶる丸乗船兵士の記録	伊藤達矢（文京区）
松岡汽船「松友会報」	中原 厚（千葉県）	長山丸航海日誌（抜粋）	寺井孝一（富山県）
海防艦「天草」顛末記	吉田郁次郎（大田区）	私の戦争の記録	浦田乾道（練馬区）
19年8月門司港発船団（7隻）遭難状況	柴 邦彦（葛飾区）	ラッパとタクト（南方軍軍楽隊の悲劇）	鈴木林一（宇部市）
「竹」船団の悲劇	杉山勝治（中野区）	熱河丸撃沈されるの記	須摩洋朔（杉並区）
父向野弥助の日記他	向野信行（川崎市）	崎戸丸遭難記（絵と文）	和田園（世田谷区）
甲南丸（木原商船）遭難体験記	大和田吉雄（大洗町）	めきしこ丸航海記録	宗田精悟（福岡県）
私の処女航海と戦争体験記	中新一郎（石川県）	はたちの記録（弾薬、弾薬輸送船の中で）	星野義男（浦和市）
広田丸遭難記録	村上一郎（相馬市）	東海林久三郎（村上市）	
東安丸船長の思い出	小島光造（藤沢市）	護国丸事故報告書	岩原寛一（杉並区）
はあぶる丸遭難時の思い出	堀口悟司（茨城県）	客船の絵はがき72枚他	田村章吉（市原市）
		高島丸の写真	田中三郎（江戸川区）
		日本の客船	安藤剛夫（横浜市）
		海と空（2600年版）	鈴木松太郎（川崎市）

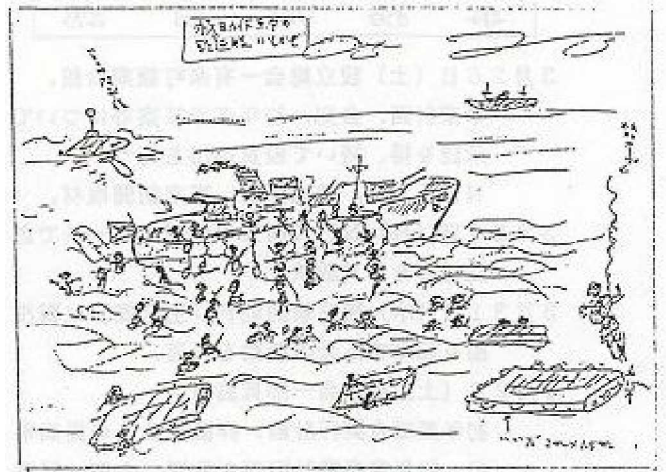
「崎戸丸」遭難記の一部（宗田精悟氏）



甲板ヘランニングシャツの下着一枚で飛び出して来た小生は、どうてんしてうろうろしてました。何千人の兵隊さん達もデッキの上で右往左往してました。その時賄部のチーフの先輩が、それでは海中に飛び込んでも水温で冷えてしまうと、戦死されてる兵隊さんの着ているコートをはぎとって小生に着せて呉れました。そして救命胴衣と兵隊さんのゲートルをとって小生の体に巻き付けてくれました。そのチーフも年配と泳ぎ疲れか戦死されました。



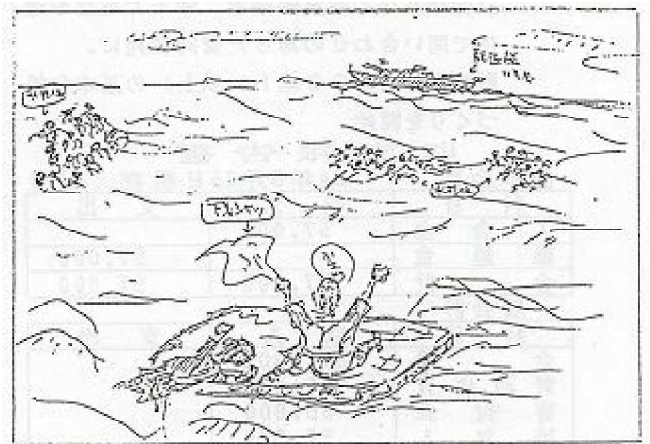
崎戸丸左舷に4本、右舷に2本、計6本の魚雷が命中された本船は沈没までに約20分間。その間に船はだんだん左に何度か傾斜しはじめました。船べりに何百人の人が吊り下がる大きな網ハシゴが下ろされ、何十個の筏が投げ込まれた頃、内田直作船長の総員退船命令が下り、兵隊さんの吹く退船ラッパがひびきわたりました。吾れ先にハシゴを降りるもの、海へ飛び込むもの、甲板上も海の上もまるで超満員のプールの様だ。小生は、長野県出身の小池先輩と一緒に、コルクのブイにつかまって10m下の海へ飛び込みましたが、浮上したときは小池さんは見えなかった。これから漂流20余時間が待っているとは夢にも思わなかった。



護衛の駆逐艦「磯風」は敵潜の雷撃をかわすためエンジンのスクリューはとめず、また照明灯を付けての救助作業は、夜明けを待って開始されました。火の海、重油の海、爆雷の誘爆の振動する海、水死体だらけの海。

夢中で泳いでやっと筏に捕まりましたが、漂流2-3時間のころは、兵隊さんと一緒に軍歌を歌ったり、はげまし合って元気でしたが、だんだん寒さで冷えてきて、年寄りの兵隊さんはうわ言を叫びながら海中へ沈んでいき始めました。小生も体温を保つため小便が出てひととき暖かいのが待ち遠しかった。

「磯風」は甲板から水兵さんがロープを投げてくれても、われ先につかまるので、引き上げられる小生の足に次の人がつかまるので、何度も海中に落下され、その内に小生の体がだんだんスクリューの方に巻き込まれるのを感じ、船べりを足げりして艦から離れました。



スクリューに巻き込まれず、やっと艦からはなれた小生は、何時か意識不明になって筏で漂流したようだ。気がついてみると兵隊さんと2人だけだ。兵隊さんが生きてたのか死んでたのか忘れてしまった。時間的には昭和19年3月1日の昼間の様であったと思う。兵隊さんの水死体が重油でべとべとにこげて、真っ黒になった頭がゴミのように波のうねりの間を無数に漂っている。

何時間かたった頃、水平線上に再び救助の駆逐艦が現れた。小生は筏の上から白いシャツをぬいで夢中で振り、叫び、助けを求めた。

## 事務局日誌

- 3月26日(土)創立総会一有楽町糖業会館。  
事業計画、会則、初年度予算案等について承認を得、続いて役員選出を行う。  
NHKTV、読売新聞、東京新聞取材。
- 3月27日(日)NHK関東甲信越ニュースで創立総会を放映。
- 3月31日(木)読売新聞朝刊「生活欄」に戦没船を記録する会の活動を報道。
- 4月2日(土)理事会=部員協会。  
初年度総合実行計画。評議員会への提案事項。初年度事業計画等を承認。会則への銘牌建立の明記、会員区分、会費年額等の一部修正の検討。
- 4月3日(日)フジテレビ本会の活動取材の録画開始、上野駅で。
- 4月21日(木)沖縄テレビが本会の活動取材、録画。
- 4月23日(土)評議員会-太平洋学会会議室。  
総会以後の活動報告。会則の一部修正案、会長代行に浦田副会長決定。総合実行計画の説明、承認。  
フジテレビが取材録画。
- 4月27日(水)会員募集案内を作成、発送。設立発起人など会員候補者、今までの電話や通信で問い合わせのあった賛同者宛に。  
戦没汽船(100総トン以上)の基本台帳づくりを開始。

## 収支報告書

**基本会計** 94年6月25日現在(円)

科目	収入	支出
入会金	57,000	
繰越金		57,000
合計	57,000	57,000

### 一般会計

科目	収入	支出
会費	371,000	
賛助会費	68,000	
寄付金	66,600	
雑収入	52,298	
通信費		99,662
会議費		18,925
印刷費		55,552
文具費		58,543
資料費		15,862
事務所費		60,000
雑費		13,991
繰越金		235,363
合計	557,898	557,898

繰越金内訳	基本会計	一般会計
現金	24,000円	3,503円
振替貯金	33,000円	231,860円

## スケジュール

月日	事業部	記録部
5月	会員募集 (文書作成・発送) 会報発行準備 マスコミ対応 支部対策	基本カード作成 戦没者名簿名寄せ
6月	討論集会準備 (日時、場所、パネラー) 集会準備会 会報第1号発送	基本カード終了 (100ト以上の汽船、 2,833隻)
7月	集会準備会 鷗友会総会 (20日・パネル展示) 会報第2号準備	コンピューター 打ち込み開始
8月	日野カルチャーセンター (パネル展示・講演) 討論集会開催	記録整理作業

- 5月12日(木)朝日新聞が本会の活動を取材。
- 5月19日(木)記録・事業合同部会。  
現在までの会員状況、作業進捗状況の報告。今後の各部会の活動、作業の具体的な進め方について協議、検討。
- 6月9日(木)会員募集パンフ完成。会員、賛助会員、賛同者等に発送。全国の船員OB会等に順次発送。
- 6月30日(木)戦没船の基本台帳、汽船100トン以上2,833隻分完成。

## お願い

この会報に「なまえ」をつけて下さい。ハガキ、電話などで事務局までお願いします。

会員になってください。正会員は入会金1,000円と会費年額6,000円、賛助会員は年会費4,000円です。事務局までご連絡を。

お手持ちの写真や記録、資料を提供して下さい。必要な場合はコピーを取らせていただいて、原本はお返しします。今まで寄せていただいた記録・資料の概要を2-3頁に掲載しましたが、整理して順次紹介したいと考えています。

事務局の手不足でスケジュールの消化が少しづつ遅れています。月曜-金曜の午後1時-5時の範囲で手伝ってくださる方を期待しています。

事前に事務局にご連絡下さい。

この会報を充実させるため、みなさんのご意見やご感想など、ご協力をお願いします。